

MEX NEWSLETTER

Matsumoto International Exchange Committee

平成 28 年 3 月 1 日
(事務局)松本市丸の内 3 番 7 号
松本市役所 都市交流課
TEL : (0263) 34-3000
FAX : (0263) 34-3201

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

廊坊市を 公式訪問しました



左：馮紹慧（ヒョウショウケイ）廊坊市市長

友好都市提携 20 周年を記念して、松本市から、菅谷昭市長、近藤晴彦市議会副議長、一般公募の市民による訪問団 14 人が、11 月 23 日から 6 日間の日程で、中国河北省・廊坊市を訪問しました。
廊坊市は、北京市と天津市のほぼ中央に位置する、人口約 430 万人の都市で、

平成 7 年 3 月に友好都市提携を結びました。

廊坊市内のホテルで開かれた祝賀会では、廊坊市の馮紹慧（ヒョウショウケイ）市長らの温かい歓迎を受け、記念品の交換や今後の交流についての意見交換など、両市の一層の交流推進を確認しました。



第二中学校張校長（左）に清水中学校生徒の書を贈呈

翌日、訪問団一行は、清水中学校の提携交流校・廊坊市第二中学校と、相澤病院と交流提携を結んでいる廊坊市人民医院を視察しました。

廊坊市第二中学校では、

清水中学校の生徒が提携 20 周年を記念して書いた書道の掛け軸や松本城の水彩画を贈呈しました。芸術教育に力を入れている廊坊市第二中学校では、ダンスや古箏、二胡の披露を受けた後、デッサンや声楽の教室を視察しました。



第二中学校歓迎の様子



廊坊市人民医院

また訪問団は、友好都市提携 10 周年記念の際、桜の苗木 100 本を植樹した人民公園も訪れ、交流の足跡を確認しました。

その後、旧満州等中国大陸に渡った日本人が、終戦後に日本への引き揚げ拠点となった遼寧省・葫蘆島市を訪れ、記念碑を見学し、あらためて平和の尊さをかみしめました。



急速に発展する廊坊市街



グリンデルワルト村 中学生ホームステイ事業



松本市内の中学生が、9月14日から19日の日程で、スイス・ベルン州グリンデルワルト村でのホームステイを体験しました。

松本から成田まで、バスで5時間。成田空港からチューリッヒまでのフライト時間は約12時間。首都のベルンに到着した夜は、さすがに疲れた様子でした。

2日目は世界遺産に指定されたベルン旧市街の視察後、在スイス日本国大使館を表敬訪問しました。前田特命全権大使に、日本とスイスの関係や外交官の仕事についてお話をいただきました。その後、グリンデルワルト村へ向かいました。村役場前で、シュラツピー村長をはじめ、ホストファミリーの皆さんの温かい

い歓迎を受けました。



グリンデルワルト村に到着

3日目は村で一番大きな中学校「グラーベン校」を訪問しました。体育館で歓迎の音楽演奏を聞き、生徒達が自ら松本市の紹介を英語で行いました。その後、現地の生徒と輪になり、松本ぼんぼんを踊り、大いに



松本ぼんぼん

盛り上がりました。

その後、生徒達はグループに分かれ、英語で数学や、フランス語の授業を受け、簡単なゲームをするなど、海外の学校の雰囲気を体験しました。

午後は、グローセ・シャイデックまでバスで行き昼食を食べ、フィリストまでハイキングをする予定でしたが、強風でゴンドラが運休したため、コースを変更し、予定より短いハイキングをしました。



「授業の様子」

4日目は、登山電車でヨッパで一番高いところにある鉄道駅ユングフラウ

ヨッホへ上りました。雨と強風で、展望台からは残念ながら雄大な氷河や山々を望むことはできませんでした。



ユングフラウ鉄道 (登山電車)

ユングフラウから下山し、夜は、ホストファミリーとのさよなら夕食会。生徒たちは、ピアノ、空手、日本舞踊、手品などの特技を披露しました。

グリンデルワルト村での充実した時間は瞬く間に過ぎ、お別れの朝がやってきました。ホストファミリーやシュラツピー村長が見送りに来てくれました。「まだ帰りたくない」、「短すぎる」そんな生徒の囁きが聞かれました。

参加した中学生は、ホームステイでの経験や、楽しかった思い出を胸に秘めて、元気に帰国の途につきま



町の風景

主な内容

(9月14日(月)~19日(土)、5泊6日)

- 第1日目 松本出発 チューリッヒ着
- 第2日目 ベルン市内視察・日本大使館訪問
グリンデルワルト村へ
- 第3日目 学校訪問
- 第4日目 ユングフラウヨッホへ、さよなら夕食会
- 第5日目 グリンデルワルト村発
チューリッヒ発
- 第6日目 帰国

カトマンズ市へ救援 募金を贈呈しました



ルドラ・シン・タマン カトマンズ市最高責任者(右)

ネパール地震で被災した姉妹都市カトマンズ市へ、松本市海外都市交流委員会と松本市が連携して行った救援募金をお届けしました。
平成27年8月18日(火)から20日(木)の間、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長と松本市政策部職員が訪問し、ルドラ・シン・タマン最高責任者(市長)へ1千万円の救援金を

贈呈しました。(市民、市議会、学校、企業等団体からの募金8百万円、市救援金2百万円)

その後、市内の被災状況を視察したほか、松本市民の寄附を元に建設した武道館や信明中学校の交流校(バンヌ・バクタ記念校)等を訪問しました。また、今後の交流やカトマンズ市に対する支援について、在ネパール日本大使館と情報交換を行いました。



外壁と天井の一部が破損した武道館

タマン カトマンズ市最高責任者は、支援して下さった松本市民に感謝の意を表するとともに、救援募金の用途について以下のと

- おりとしています。
- (1) ストリートチルドレンの生活改善プログラムへの支援
 - (2) 市内に12カ所あるヘルスケアセンターの活動支援(予防接種、貧困層への支援を実施)
 - (3) 文化財の補修
 - (4) 武道館の補修(松本市民の寄附を元に建設)



仮設のテントで授業を受ける子どもたち

「ネパール大地震姉妹都市カトマンズ市救援募金」に対し、多くの心温まる支援をいただきました。ありがとうございます。本募金は、平成27年12月31日(木)をもちまして、終了いたしました。

第26回 信濃の国 楽市楽座に出展しました



松本市海外都市交流委員会では姉妹・友好都市を市民の皆様幅広く知っていただくため楽市・楽座へ出展しています。本年度は、10月17日(土)、18日(日)に開催され、6回目の出展となりました。

2015年はネパール地震で被災したカトマンズ市を支援するため、募金活動を展開したことから、今回の出展では、ネパールの紹介や地震の被害状況を写真で紹介するとともに、カトマンズ出身で市内でカレー店を営むカトリさんが感謝の気持ちをこめ、ネパールカレーの試食を振る舞ってくれました。

開催2日間は、天候に恵まれ、来場された多くのお



多くの皆様にお越しいただきました

客様に、当会の活動を知っていただき、また姉妹都市カトマンズについても、理解を深めていただく良い機会となりました。

グリンデルワルト村長が 松本を訪れました



11月27日(金)～30日(月)の4日間、グリンデルワルト村から村長、観光局長、登山家、ヨーデル歌手、日本語観光案内所の安東夫妻らが松本市を訪れました。一行は、まつもと市民芸

グリンデルワルト村村長一行

(11月27日(金)~30日(月))

- 1 エマニエル・シュラッピー (村長)
- 2 ブルーノ・ハウスヴィルト (観光局長)
- 3 サミー・ツンブルン (ヨーデル奏者)
- 4 ロジャー・シャーリ (プロ登山家)
- 5 安東 一郎 日本語観光案内所 所長
- 6 安東 康代 副所長 (6名)



術芸術館で開催された山岳フォーラムに出席するため、来松しました。登山家のロジャー氏が記念講演を行ったほか、村の魅力などを紹介しました。

駐日チェコ共和国大使をお迎えしました



平成24年4月に松本市海外都市交流委員会に入会したスメタナ・リトミシユル会はチェコ共和国のリトミシユル市と交流を続けている団体です。深まる交流に応えて、トマーシュ・ドゥプ大使が松本市を訪れました。

リトミシユル市は作曲家スメタナの生誕地であり、また市の中心にあるリトミシユル城は世界遺産にも登録されています。両市は共に街の中心に城があり、音楽祭が開催されるなど共通点があります。

9月24日(木)に菅谷市長を表敬訪問した一行は、今後の民間交流促進について懇談しました。なお、平成24年には、前大使が来松

しています。

同会の久保田会長から、本年度の活動報告をご寄稿いただきました。

H27年度の活動報告

スメタナ・リトミシユル会

会長 久保田 嘉信

1 チェコ共和国大使の

松本市への訪問

(1) 平成27年9月24日、長野県知事及び松本市長をはじめ長野県及び松本市の関係者のご尽力により、前チェコ共和国駐日特命全権大使カテジナ・フィアルコヴァ閣下の後任として赴任したチェコ共和国駐日特命全権大使トマーシュ・ドゥプ閣下の長野県と松本市の表敬訪問が実現することができました。ドゥプ閣下は、チェコ共和国下院議員、チェコ共和国外務副大臣を歴任して平成26年10月16日チェコ共和国駐日特命全権大使に就任した。

(2) ドゥプ閣下は、長野県庁において、阿部守一知事と工業技術、経済、芸術文化など多岐に亘り懇談され、善光寺を視察された後、長野オリンピックでチェコ共和国のチームがアイスホッケーで優勝したピックハットの施設を視察し、松本市を表敬訪問した。

(3) 菅谷松本市長とドゥプ閣下との間で、文化、教育、テックノロジーなどにつき懇談され、リトミシユル市の幼児から送られて来た絵画の展示を話題にし、リトミシユル市との交流を希望する保育園に絵画を募集することを約束され和やかに歓談された。

(4) 当日午後6時より、松本市のホテルにおいて菅谷市長代理坪田副市長、太田副知事、塩尻、大町、安曇野の3副市長、松本市議会議長、商工会議所会頭、財界、教育界、芸術文化界の代表、スメタナ・リトミシユル会の

関係者など90余名の出席者のもとにドゥプ閣下の講演と引き続き歓迎レセプションが行われ、チェコと日本、松本市との交流を図った。

(5) 翌日(9月25日)、ドゥプ閣下は松本城を見学、相澤病院の陽子線など高度医療機器を視察、安曇野市の(株)日本電熱を訪れ、日本電熱のテックノロジー機器の説明に強い関心を寄せられた。ドゥプ閣下が日本電熱を訪問された記念としてチェコの国樹、「菩提樹」の苗木を植樹し、チェコ、日本両国の親善交流の証とした。

2 黒沼ユリ子ヴァイオリン

コンサートの開催

平成27年10月6日松本市音楽文化ホールにおいて、チェコ・プラハ音楽芸術アカデミーを「榮譽賞つき首席」で卒業、「プラハの春」国際音楽祭にデビューしたチェコとは関係のある国際的ヴァイオリニスト黒沼ユリ

子氏のコンサートを500名余の聴衆者のもとに開催した。

平成28年度はリトミシユル市を訪問し、更なるチェコと松本市との民間国際交流を図る計画をしている。



ノベ・フラティ城

**台湾・高雄市と
交流の覚書を締結しました**



7月14日に台湾・高雄市の市政府関係者が松本市を訪れ、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」を締結しました。

覚書の主な内容は、両市は「高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する」「教育交流を積極的に推進する」というものです。

松本市と高雄市の中学校がインターネット電話（スカイプ）を活用して交流を始めたほか、松本市の、福祉ひろばの活動を基にした「出張ふれあい健康教室」を台湾で開催するなど、両市の交流が、今回の覚書を契機として始まりました。



右から3人目、呉 宏謀（ごこうぼう）高雄市副市長

**4姉妹・友好都市合同
事業を実施しました**



松本市ソルトトレイク姉妹提携委員会と本会が合同で実施する4都市合同事業は、本年6回目となりました。平成27年は、戦後70年の節目の年であり、また松本市と廊坊市が友好都市提携を結び20年を迎えた年でもありました。そこで本年度は、平和の尊さをかみしめ、今

後の友好の道を確認する機会として、満蒙開拓平和記念館（阿智村）とJICA駒ヶ根（駒ヶ根市）を2月26日に訪問、視察しました。満蒙開拓平和記念館は、旧満州（中国東北部）に入植した満蒙開拓団の苦難の歴史を伝え、平和の尊さを次世代に語り継ぐために設立された、満州移民史を扱う日本で唯一の民間施設です。長野県南部は、全国で最も多くの開拓団を送りだしたそうです。

力隊訓練所を訪問しました。訓練所は1979年に開設され、青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの派遣前訓練を行っています。また、長野県におけるJICA事業の総合窓口として、派遣前訓練のみならず、教育現場における国際理解教育、各団体との連携行事の開催、帰国ボランティア報告会など、市民の方々に広く国際協力を理解してもらうため、さまざまな事業を展開しています。



満州開拓平和記念館（阿智村）

午後は、駒ヶ根青年海外協



JICA 駒ヶ根訓練所正面にて

総会



5月22日にホテル・ブエナビスタにて定期総会を開催しました。当日は多くの会員の皆様にお集まりいただき盛大な会となりました。事務局より、本年度の事業計画等が示され、賛成多数で承認されました。総会後には懇親会が催され、出席された会員の皆さんが大いに交流を温めました。

(総会会長あいさつ)

松本市長 菅谷 昭



松本市海外都市交流委員会会長の菅谷昭でございます。本日はご多忙のところお集まりいただきまして誠

にありがとうございます。会員の皆様には、松本市の海外都市の交流事業にご理解と協力を賜り、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、去る4月25日にネパールで発生しました大地震では、多くの尊い命が失われ、また、貴重な文化財の多くが倒壊するなど、甚大な被害を受けています。松本市は、カトマンズ市と姉妹都市提携を結んで以来26年間、様々な友好交流を進めてきておりますが、こうした状況の中で、会員の皆様の迅速なご対応により募金を始めさせていただきましたことについて、改めて感謝申し上げます。今後もし引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年3月には、松本市と廓坊市が友好都市提携を結び20周年を迎えました。11月には廓坊市への公式訪問を予定しております。

また、松本市は、本年度から台湾第2の規模を誇る高雄市において、本市の健康寿命延伸施策の発信をはじめ、中学生交流事業等を積極的に進める予定をして

おります。

松本市といたしましては、国際化の進展とともに、外国人居住者にとっても、住みよいまちづくりが求められている中、会員の皆様と連携を図りながら市民の皆様の国際理解や国際感覚の醸成を図るとともに、より一層の国際化に対応したまちづくりを進めていきたいと考えております。

結びに、本年度も会員の皆様と共に交流の歩みを一歩ずつ進めてまいりたいと考えておりますので、皆様の変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

事務局だより

「春節（旧正月）」

都市交流課 黄 雪玲



中国広東省出身で、松本に来て既に7年が経ちました。この7年間の旧正月のうち、

1回のみ実家で過ごし、他は松本で過ごしました。両国の新年の祝い方には共通点も違いもありますが、今回は中国での典型的な旧正月の様子を紹介したいと思います。

中国では、大晦日は1年の労いや新しい年を迎えるお祝いの意味があり、家族団欒の大事な日でもあります。どんなに遠く離れていても、できるだけ帰省し、家族全員が一緒に食事をします（これを「団円飯」と言います）。過去には祖父の家には27人（祖父には息子5人、孫15人がいるので）が集まったことがあります。

中国の春節は町全体が大変賑やかです。爆竹の音や新年の音楽、獅子舞などの伝統的なイベントで演奏する太鼓やラッパなどの音があちこちで響いてきます。特に地方では、この賑やかな雰囲気はランタン祭り（旧暦1月15日）まで続きます。



お知らせ

1. 会費納入のお願い

海外都市交流委員会は会員の皆さんの会費で運営されています。今年度の会費のお支払いがお済みでない方は、お早めにお願いたします。振込先は次のとおりです。

八十二銀行

松本市役所出張所

(普通) 103120

松本市海外都市交流委員会

2. 新規会員募集中!

松本市海外都市交流委員会では新たに入会を希望される方を募集しています。既に国際交流をされている個人・団体ももちろん、国際交流に関心をお持ちの方はどなたでも歓迎いたします。年会費は、個人2千円、団体1万円。お申し込みは事務局（松本市都市交流課 ☎3413193）までお願いいたします。